

TOCOSの持続的企業価値向上を目指す 経営体制の確立

東京コスモス電機株式会社に対する株主提案に関する説明資料

2025年6月5日
Global ESG Strategy

1. はじめに	
1-1 GESについて	2
1-2 エグゼクティブサマリー	3
2. TOCOSの抱える課題	4
3. GESが目指す経営体制	11
3-1 GESが提案する経営体制の考え方	12
3-2 TOCOSの具体的な経営体制	13
3-3 【ご参考】新たな組織図イメージ	14
3-4 【ご参考】「コーポレートガバナンス・コード」が求める取締役会の在り方	15
3-5 株主総会後のアクション	16
4. 株主提案の内容	17
5. TOCOSの主張について	20



ESGの観点からの中長期的な投資

Global ESG Strategy（以下「GES」）は、Swiss-Asia Financial Services Pte Ltd（以下「SAFS」）の運営ファンドです。GESは、投資先の企業に対して、ESG（Environment（環境）、Social（社会）及びGovernance（ガバナンス））の視点から中長期的な投資を行う投資方針を採用している機関投資家であり、投資先との建設的な対話等を通じて、投資先の企業価値・株主価値の向上を実現することを後押ししていくことを方針としています。

SAFS運用ファンドは、現時点において、東京コスモス電機株式会社の議決権比率約27%を保有しています。

Global ESG Strategyについてはこちら：

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/135781

- GESは、2023年より東京コスモス電機株式会社（証券コード：6772、以下「TOCOS」）に対する投資を開始し、同社へのエンゲージメントを継続してまいりました。現在、SAFSの運営ファンドにてTOCOSの株式を議決権にして約27%保有しています。
- GESは、TOCOSにおいて成長戦略の不存在、成長投資・株主還元の不実行、後継者及びサクセッションプランの不存在といった深刻な課題が存在し、その結果として現在の株価は潜在的企業価値及び株主価値が反映されていない水準だと認識しております。
- したがって、GESは、取締役（監査等委員である取締役を除く）を刷新し、**経営体制と監督機能のアップグレードを行い、TOCOSの成長戦略を確実に策定・実施することのできる新たな取締役候補を提案**します。取締役の刷新が実現すれば、成長戦略の策定、成長投資・株主還元の実行、サクセッション・プランの策定が期待できると考えます。
- なお、GESとしては、中島秀雄氏（営業本部長・生産本部長）、宮田一智氏（技術本部長・品質本部長）及び久保田純氏（管理本部長）につきましては、取締役という立場からは離れるものの、各業務執行の責任者の立場でTOCOSの企業価値向上のために尽力していただきたいと考えております。
- 本資料では、TOCOSが抱える課題及びGESが考える経営体制の在り方についてご説明いたします。

目的	議案	
成長戦略を確実に実施する 経営体制の構築	議案1	取締役（監査等委員である取締役を除く）5名選任の件
	議案2	取締役（監査等委員である取締役を除く）報酬等の額設定の件

2. TOCOSの抱える課題

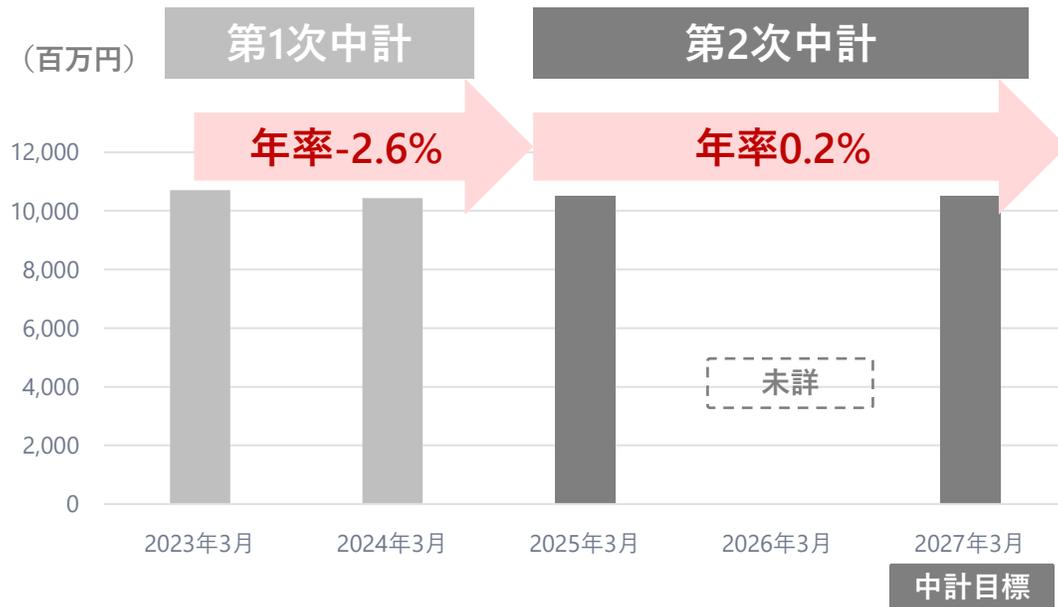
3つの重大な課題



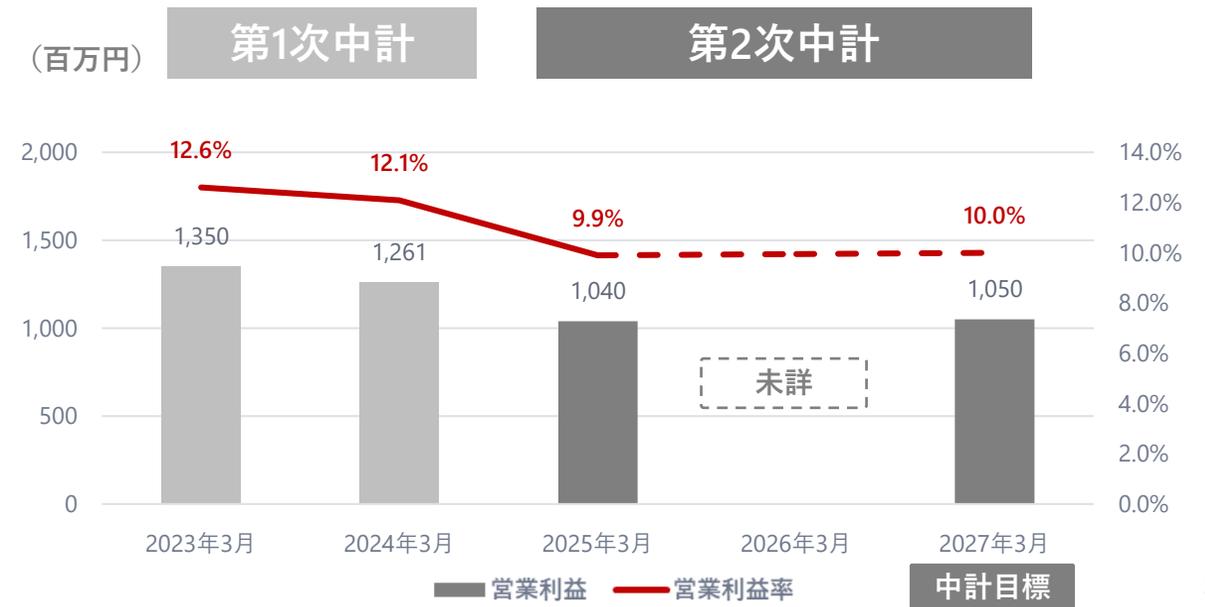
- TOCOSは、2023年3月期に過去最高となる連結売上高107億円を達成したものの、2024年3月期は104億円、2025年3月期は105億円と縮小均衡に陥っています。また、営業利益は、従業員数を削減するなどのコスト削減の結果、2023年3月期において13.5億円（営業利益率12.6%）を達成したものの、2024年3月期は12.6億円（営業利益率12.1%）、2025年3月期は10.4億円（営業利益率9.9%）まで低下する見通しを示しており、成長性、収益性共に悪化しています。
- 過去2年間にわたり売上・利益が減少、更に今後3年間も売上・利益を伸ばせないと主張する現経営陣は退陣すべきです。

5年間も売上と利益が増大しないのでは、現経営陣には経営能力が無いと判断せざるを得ません

5年連続成長しない売上高



低迷し続ける営業利益率



- このような環境の下、2024年4月に第2次中期経営計画（2024～2026）を発表したものの、その数値目標は2026年度に売上高105億円、営業利益10.5億円（営業利益率10%）と現状から成長しない3カ年計画を設定しましたが、現経営陣は成長が鈍化していることに対して危機感がないことを示しています。
- また、TOCOS岩崎社長は自社の株価に対する見解を求める度に「市場が決めるものなので分からない」等と説明し続けています。東証からも「資本コストや株価を意識した経営」¹が求められていますが、岩崎社長を含む経営陣は、株価を意識した経営を行っていないと判断せざるを得ません。

現状から成長しない計画を設定



岩崎社長は株価を意識した経営を行わず



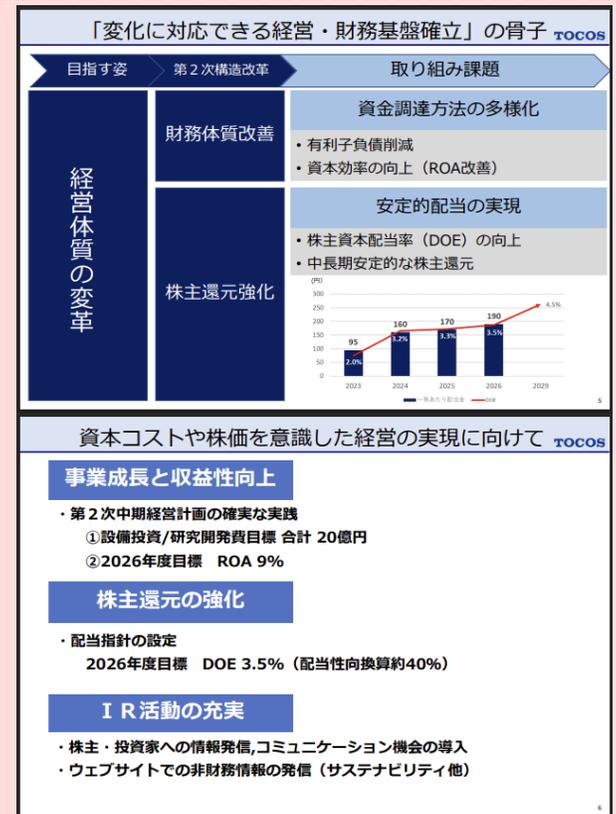
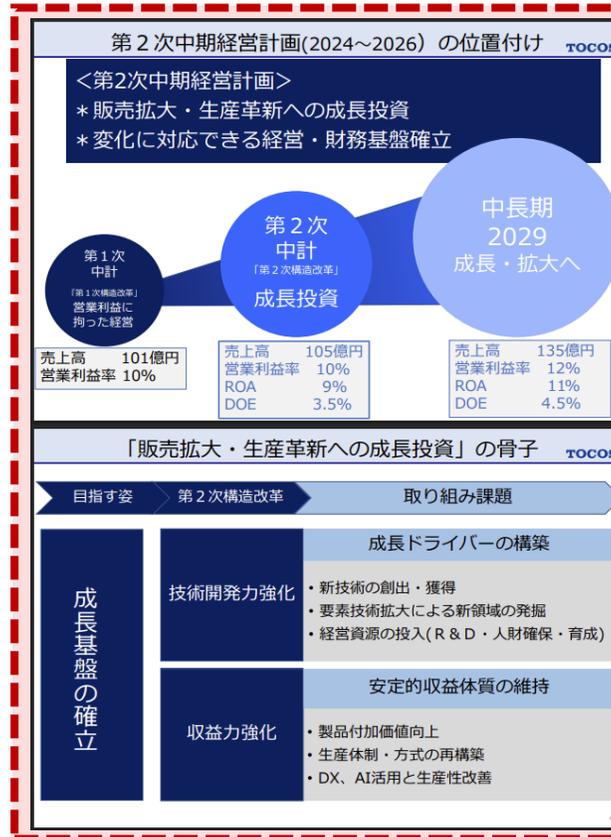
TOCOSの株価への
見解を求める

「市場が決めるものなので
分からない」等と説明



TOCOS[®]
東京コスモス電機株式会社

- 昨年4月に公表された新中期経営計画は実質的にわずかスライド4枚であり、中身が無いと言わざるを得ません。どの事業をどのように伸ばすのか、どのような分野に投資を行うかなど具体的なことには一切触れられていません。
- TOCOS経営陣は我々に対して、十分に具体的な経営方針を開示しており、内容に何ら不足は無いと強弁しています。しかし、我々との面談の中でも、経営陣は今後の事業運営に関する方針について何ら具体的な話をしない状態が続いています。
- 上場企業を経営するにあたって必要な経営方針を策定することすら現経営陣はまともにできていないと判断せざるを得ません。



- 2025年3月期を初年度とする第2次中期経営計画において、「設備投資/研究開発費目標合計20億円」と掲げているにも関わらず、**具体的施策が実行されているとは考えづらい状況が継続しています**。設備投資/研究開発費からなる成長投資には開示の無い研究開発費、戦略的人件費の積み増しなども含まれると考えられますが、少なくとも開示のある有形固定資産及び無形固定資産の増加額は2025年3月期において約2.2億円しか計上されていません。
- また、第2次中期経営計画公表から1年が経過した現在に至るまで、成長投資や株主還元についての具体的な施策について経営陣は株主に対し何ら示しておらず、**余剰資金を成長投資や株主還元にも有効活用できていないのは明らかです**。

成長投資は不実行



有形・無形固定資産取得は約2.2億円のみ

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△36,000	△24,000
定期預金の払戻による収入	36,000	24,000
有形固定資産の取得による支出	△161,733	△223,114
有形固定資産の売却による収入	2,650	305
無形固定資産の取得による支出	△5,426	—
その他	1,507	6,456
投資活動によるキャッシュ・フロー	△163,003	△216,352

- 岩崎代表取締役社長は今年70歳を迎え、取締役会自身が後継者問題があると過去2年間我々に表明し続けていますが、現経営体制において有力な後継者候補が見られません。
- 有効なサクセッションプランが示されず、中期経営計画を含めTOCOSの経営計画執行に疑義を生じさせる状況です。
- 取締役会も後継者問題が喫緊の課題と認識しているものの、岩崎社長に一任し、能動的に解決することを避けています。

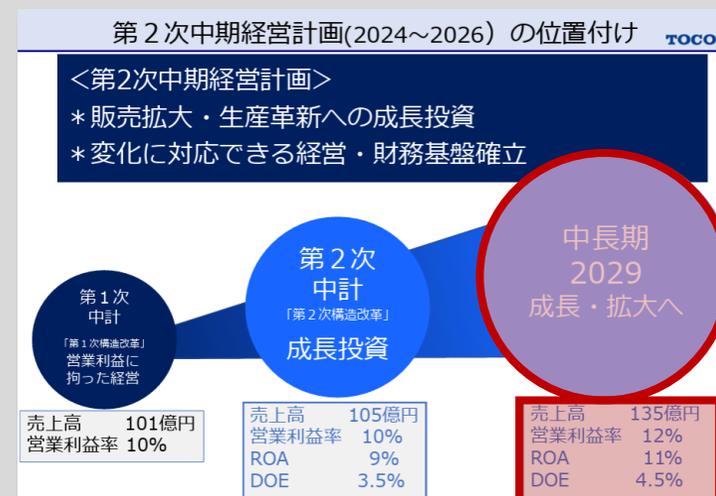
後継者及び サクセッションプランの不存在

後継者については **4**つの課題が存在

- ① 岩崎代表取締役社長は今年70歳
- ② 有力な後継者候補の不在
- ③ 有効なサクセッションプランなし
- ④ 取締役会は能動的な解決避ける

経営計画執行に疑義

2029年売上高135億円等達成可能か?



- GESは、TOCOSの課題として、成長性・収益性の悪化、余剰資金の未活用、後継者の不在があると考えています。
- これらの問題が発生するのは岩崎社長の経営能力不足（株主・債権者・従業員・取引先などのステークホルダーを考えた経営がされていない）によるものであると言わざるを得ません。

岩崎社長の経営能力不足・取締役と執行役の重複による経営の管理監督機能不全が これらの問題を生み出している

成長戦略の不存在

- 過去2年間売上・利益は伸長せず、今後3年間も売上・利益共に伸びない中計を発表。
- 5年間にわたって売上・利益が伸びない経営は、経営陣に経営能力が無いと言わざるを得ない。

成長投資・株主還元の 不実行

- わずか4ページの第2次中期経営計画公表から1年が経過した現在に至るまで、具体的な事業戦略、成長投資や株主還元について経営陣は株主に対し何ら示していない。
- 余剰資金を成長投資や株主還元の有効活用できていない。

後継者及び サクセッションプランの 不存在

- 現経営体制において有力な後継者候補が見られない。
- 有効なサクセッションプランが示されていないことは、中期経営計画を含めTOCOSの経営計画執行に疑義を生じさせる状況。

3. GESが目指す経営体制

経営の質を高め、長期的な成長を促進する



- 経営戦略の不存在、成長投資・株主還元の不実行、後継者・サクセッションプランの不存在の責任を有する岩崎氏は、代表取締役として不適格であり、株主総会をもって退任していただきます。
- 具体的な業務部門を率いる中島氏（営業本部長、生産本部長）、宮田氏（技術本部長、品質本部長）、久保田氏（管理本部長）については、取締役からは退きつつ、各本部を率いる資質・適格性・専門性を有していると考えられるため、業務執行の責任者として引き続き各本部長を担っていただきます。
- その上で、GESが経営戦略・経営監督などを高い資質を有する経営人材として提案する若林氏、西立野氏、伊勢谷氏、大木氏に加え、SAFSの最高投資責任者である門田氏が取締役に就任します。
- 監査等委員を務めている現任の取締役は、引き続き経営監督にあたっていただきます。
- これらにより経営体制及び監督機能のアップグレードを行うことで、TOCOSの経営の質を高め、長期的な成長を促進します。

現状

「経営戦略の不存在」
「成長投資・株主還元の不実行」
「後継者・サクセッションプランの不存在」
を漫然と容認する取締役会

目指す姿

経営体制/
監督機能の
アップグレード

業務執行の
強化

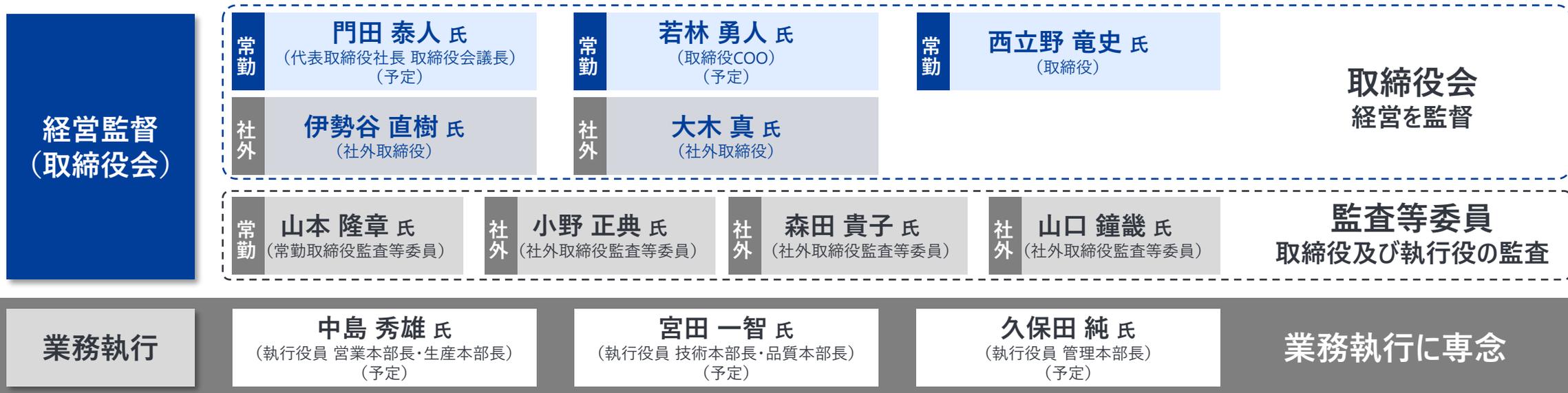
高い資質を有する経営人材

監査等委員を務めている現任の取締役

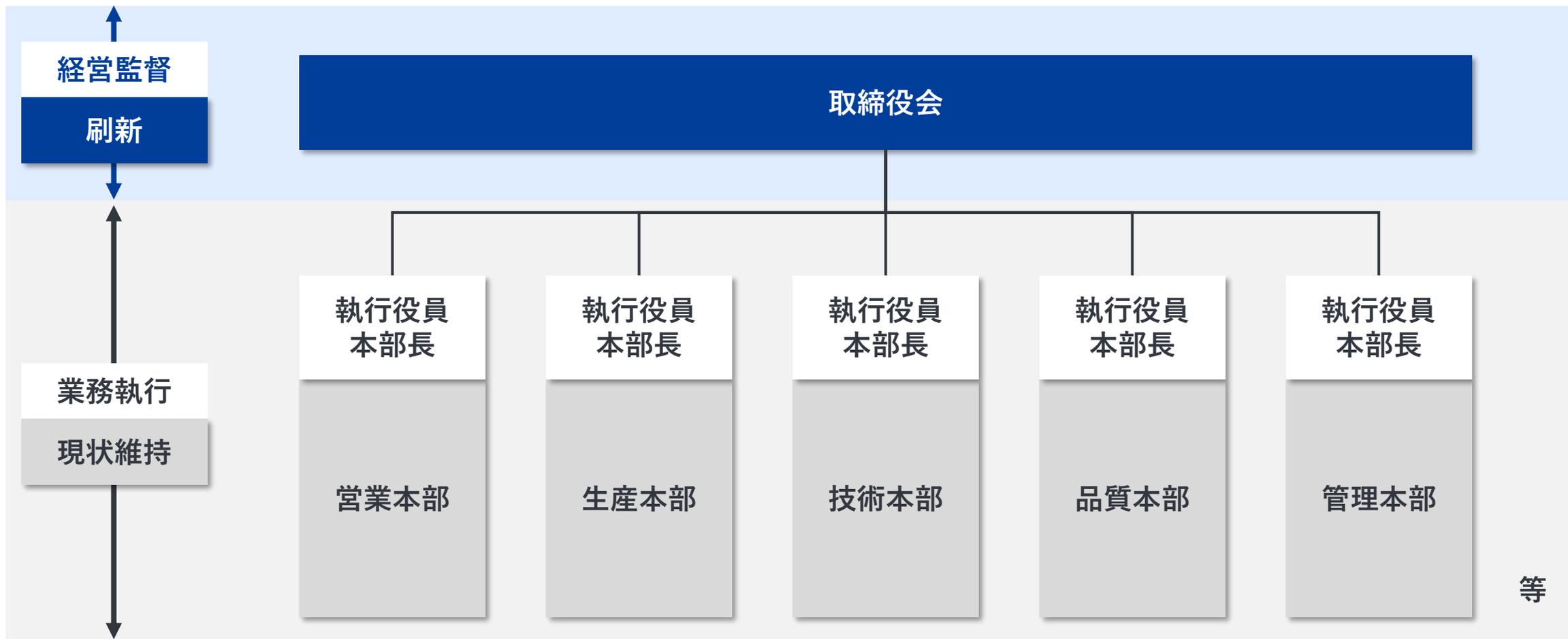
資質・適格性・専門性を有する各本部長

- TOCOSの具体的な体制としては、GESが提案する若林勇人氏、西立野竜史氏、門田泰人氏、伊勢谷直樹氏及び大木真氏が新たに取締役となり、現在の監査等委員である取締役4名とともに取締役会を構成します。
- また、中島秀雄氏（営業本部長・生産本部長）、宮田一智氏（技術本部長・品質本部長）及び久保田純氏（管理本部長）については、各本部の責任者として企業価値向上に尽力いただきたいと考えており、GESとしても必要なサポートを行ってまいります。
- なお、門田氏は提案株主の運用者であるSAFSの最高投資責任者であることから、株主と取締役間の実質的な利益相反を避けるため、TOCOS取締役に選任された場合であっても、TOCOSからの役員報酬は一切辞退いたします。

GES提案の新任取締役候補者



- これまで述べたとおり、取締役会は刷新するものの、業務執行を行う各本部等は現状を維持することを予定しております。



- 2021年6月に東京証券取引所が公表した会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指した「コーポレートガバナンス・コード」においても求められている上場企業の取締役会の役割を果たす上でも、取締役会の刷新が必要です。

コーポレートガバナンス・コード

～会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のために～



2021年6月11日

株式会社東京証券取引所

第4章 取締役会等の責務

【基本原則4】

上場会社の取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図るべく、

- (1) 企業戦略等の大きな方向性を示すこと
- (2) 経営陣幹部による適切なリスクテイクを支える環境整備を行うこと
- (3) 独立した客観的な立場から、経営陣（執行役及びいわゆる執行役員を含む）取締役に対する実効性の高い監督を行うこと

をはじめとする役割・責務を適切に果たすべきである。こうした役割・責務は、監査役会設置会社（その役割・責務の一部は監査役及び監査役会が担うこととなる）、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社など、いずれの機関設計を採用する場合にも、等しく適切に果たされるべきである。

【考え方】

上場会社は、通常、会社法が規定する機関設計のうち主要な3種類（監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社）のいずれかを選択することとしている。前者（監査役会設置会社）は、取締役会と監査役（監査役会に相当機能を持つ）を我が国独自の制度である。その制度では、監査役は、取締役・経営陣等の職務執行の監査を行うこととされており、法律に基づく調査権限が付与されている。また、独立性と高度な情報収集能力の双方を確保すべく、監査役（株主総会で選任）の半数以上は社外監査役とし、かつ常勤の監査役を置くこととされている。後者の2つは、取締役会に委員会を設置して一定の役割を担わせることにより監督機能の強化を目指すものであるという点において、諸外国にも事例が見られる制度である。上記の3種類の機関設計のいずれを採用する場合でも、重要なことは、創業者を指すことによりそれぞれの機関の機能を実質的かつ十分に発揮させることである。

また、本コードを策定する大きな目的の一つは、上場会社による透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を促すことにあるが、上場会社の意思決定のうちには、外部環境の変化その他の事情により、結果として会社に損害を生じさせることとなるものがないとはいえない。その場合、経営陣・取締役が損害賠償責任を負うか否かの判断に際しては、一般的に、その意思決定の時点における意思決定過程の合理性が重要な考慮要素の一つとなるものと考えられるが、本コードには、ここでいう意思決定過程の合理性を担保することに着手する上考えられる内容が示されており、本コードは、上場会社の透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を促す効果を持つこととなるものと期待している。

そして、支配株主は、会社及び株主共同の利益を尊重し、少数株主を不正に取り扱

【基本原則4】

上場会社の取締役会は、株主に対する受託者責任・説明責任を踏まえ、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図るべく、

- (1) 企業戦略等の大きな方向性を示すこと
- (2) 経営陣幹部による適切なリスクテイクを支える環境整備を行うこと
- (3) 独立した客観的な立場から、経営陣（執行役及びいわゆる執行役員を含む）・取締役に対する実効性の高い監督を行うこと

をはじめとする役割・責務を適切に果たすべきである。こうした役割・責務は、監査役会設置会社（その役割・責務の一部は監査役及び監査役会が担うこととなる）、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社など、いずれの機関設計を採用する場合にも、等しく適切に果たされるべきである。

- 株主総会においてGES提案取締役候補が選任された場合は、速やかに次のことを実施したいと考えています。
- また、現在の取締役の方々とも株主総会後には立場や意見の違いを乗り越え、ノーサイドで一致団結してTOCOSの企業価値・株主価値向上のために協力して取り組んでまいりたいと考えています。

成長を実現する経営計画の策定

従業員、取引先、その他ステークホルダーへの丁寧なコミュニケーション

従業員の方々が安心でき、やる気をもって働ける組織体制づくり

4. 株主提案の内容

GESの提案する取締役候補



- GESは、TOCOSの課題として、成長性・収益性の悪化、余剰資金の未活用、後継者の不在があると考えています。
- この点、今回我々が提案する取締役（監査等委員である取締役を除く）候補者は、製造業を含む国内外の企業経営、投資戦略、財務会計等の専門家であり、上記の課題に関して、TOCOSのあらゆるステークホルダーのために、当社の成長戦略を改めて策定し、確実に実行することができる候補者です。
- 特に、若林氏、西立野氏及び門田氏はTOCOSの常勤取締役として他の社外取締役、TOCOSの役職員と共にTOCOSの課題解決に取り組む予定です。

企業経営・経営管理・経営戦略立案



若林 勇人 氏

元 J.フロントリテイリング 取締役兼執行役常務CFO
元 パナソニック コーポレート戦略本部 財務・IR グループゼネラルマネジャー



西立野 竜史 氏

元 ボストン・コンサルティング・グループ
元 ベインキャピタル

ガバナンス



門田 泰人 氏

Swiss-Asia Financial Services Pte. Ltd. 最高投資責任者（現任）

財務戦略・資本市場戦略



伊勢谷 直樹 氏

元 三菱UFJ フィナンシャル・グループ 常務執行役員 グループ Deputy CSO



大木 真 氏

公認会計士
元 UBS 証券 投資銀行本部 財務戦略部長マネージング・ディレクター
キャピタリンク・パートナーズ 代表取締役（現任）

- TOCOSの成長を打ち出せない現経営陣は、経営戦略、事業再構築、財務・会計、資本市場、M&Aといった求められる専門性と経験が圧倒的に不足しています。一方で、株主提案は必要な実効性を持つ候補者が揃っていると考えております。

	候補者名	主な経歴	企業経営	今回新たに追加		グローバル 経営	内部統制・ ガバナンス	技術・ ものづくり	営業・ マーケティング スキル	財務会計・ ファイナンス	追加		追加
				経営戦略	事業 再構築						資本市場	人事労務	投資・ M&A
株主提案	常勤 若林 勇人 氏	元J.フロントリテイリング 取締役・常務、元パナソ ニック財務・IR責任者	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
	常勤 西立野 竜史 氏	元米系戦略コンサル、元 PEファンド	✓	✓		✓		✓			✓		✓
	常勤 門田 泰人 氏	運用会社最高投資責 任者、元投資銀行	✓	✓	✓	✓				✓	✓		✓
	社外 伊勢谷 直樹 氏	元MUFG常務	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓	✓		
	社外 大木 真 氏	公認会計士、 元投資銀行		✓	✓		✓			✓	✓		✓
会社提案	常勤 岩崎 美樹 氏	代表取締役社長	✓		✓	✓	✓						
	常勤 中島 秀雄 氏	専務取締役	✓		✓	✓		✓					
	常勤 宮田 一智 氏	取締役		圧倒的に不足				✓		圧倒的に不足			圧倒的に不足
	常勤 久保田 純 氏	取締役	✓			✓			✓		✓		
	常勤 郡 慎一郎 氏	取締役						✓					

5. TOCOSの主張について

5月21日公表の取締役会意見に対する
GESの見解



- TOCOS経営陣はGESの株主提案に反対すると共に、GESの提案に対し各種の主張をしていますが、下記の通りそれらはいずれも不適當又は的外れなものです。
- 株主の皆様におかれては、このようなTOCOS経営陣による、株主の皆様の目を「TOCOSの現経営陣による成長戦略の不存在」という本質的な議論から目を逸らせようとする主張に惑わされずにご判断いただきたく存じます。

TOCOS[®]
東京コスモス電機株式会社

過去2年間よりも
前に遡れば
売上・利益を増やした

TOCOS指摘
不適當

GES取締役候補者は
製造業の経験者が
いないので不適當

TOCOS指摘
不適當

GESは短期的な利益
を追求するだけ

TOCOS指摘
不適當

GES門田の取締役就任
は利益相反の恐れ

TOCOS指摘
不適當

GLOBAL ESG STRATEGYの主張

- 2023年3月期以降、現中計最終年度の2027年3月期までの5年間にわたり成長戦略が描けていないことの説明にはなっていません。製造業各社が3年以上も「成長投資」期間として助走期間を要している訳ではなく、端的に現経営陣の成長戦略を描く能力の欠如を自ら認めているに過ぎません。
- 現在のTOCOS経営陣に必要なのは単純な製造業の経験者ではなく、企業経営、事業再構築、国際経験、財務/会計など上場会社に求められる高いレベルの経営能力を兼ね備えた人材です。
- 現在の経営陣には製造業の経験者が含まれるものの、製造業であるTOCOSの成長戦略が描けておらず、保有するネットキャッシュや自己資本の活用方針も描けていません。
- GESは、中長期的に株を保有し、建設的な対話によって企業価値向上を目指す方針のもと現在約27%もの議決権を保有する筆頭株主です。どのようにGESが「短期的な利益獲得を目的」としているかTOCOS現経営陣の反対意見からは読み取れません。
- 一般的には上場株に投資する機関投資家は投資先にそこまでリソースとコストをかけることはありませんが、GESは今回、複数の取締役候補とGES門田自らも取締役会に入ることを提案しており、これは中長期的にTOCOSの企業価値向上に積極的に関わることを示しています。
- 門田の取締役在任中、GESの保有株の売買は、他の役員と同様の売買ウィンドウのみに限られ（インサイダー規制上の重要事実を会社が抱えている間は取引をしない）、他の役員の皆様と同様にインサイダー取引規制上の問題は生じ得ず、利益相反の恐れもありません。
- むしろ、門田が株主を代表してTOCOSの経営に入り、より能動的に企業価値・株式価値向上を目指すことで、他の大多数の少数株主にも利益をもたらすことに繋がります

TOCOS[®]
東京コスモス電機株式会社

TOCOS指摘
不適當

GESはキャッシュの
使い方の話ばかりで
経営方針や事業への理解が
ない

TOCOS指摘
不適當

信用取引を行う株主は
安定的な株主とは言えない

TOCOS指摘
不適當

過去門田が在籍していた
ファンドやSAFSに対する批判

GLOBAL ESG STRATEGYの主張

- 事業の話を我々がしたいと思っても、現経営陣こそ、経営方針や事業に関する質問に対して会社側は答えられない状態が続いていました。中期経営計画も実質4ページしかなく、どのように事業成長を実現するのか何ら具体的に経営陣は説明できていません。
- GESの関心が専らTOCOSの財務面に尽きているとの主張は全くの事実誤認であり、いかに現在のTOCOSの経営陣が株主との対話についての素質・認識を欠いているかを端的に示しています。
- 現経営陣はその経営方針や事業への理解を促す説明を株主に対して出来ていない上に、同社が抱えるネットキャッシュの活用法などの財務戦略も語る事が出来ていません。
- 信用取引はファンドの資金効率の向上の一環で行っているものであり、信用取引を使っている投資家は中長期的な株保有の移行が無い株主だといった指摘は、極めて的外れな主張であると考えております。
- そもそも経営陣は、そのような手法が一般的に行われていることを認識しておらず、資本市場に対する理解の無さを露呈しているだけと言わざるを得ません。
- 過去に門田が在籍していた運用会社はSAFSとは関係がなく、TOCOSに対する株主提案とは一切関係がありません。
- また、シンガポール金融監督庁(MAS)よりSAFSへ課徴金命令が出された時点で、既に指摘された過去のコンプライアンス体制の不備への改善策実施が完了している旨MASも確認しており、現時点においても、コンプライアンス体制の不備が継続しているかのようなTOCOSの主張は、不正確であり、指摘は当てはまりません。

免責事項

本資料は、SAFSの運営ファンドであるGESによるTOCOSに対する株主提案に係る情報提供を目的としており、それ以外の用途に用いられてはなりません。

本資料に記載された情報は、SAFSによる独自の調査及び分析並びに一般に入手可能な公開情報に基づいています。SAFS、GES又はSAFSのその他の関係者（以下「SAFSら」といいます。）は、その正確性、完全性、適切性、網羅性等について何ら保証するものではありません。

本資料は、SAFSらの独自の見解、予想、意見を示すものであり、これらは今後変わることがあり得ます。いかなる目的においても本資料に依拠してはならず、また、本資料を投資、金融、法律、税務その他の助言であると理解してはなりません。

本資料に含まれる情報又は意見には将来に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述や予測、予想は、説明のみのために記載されているものであり、もとより不確実、かつ、重大な不測の事態により実際の結果がこれら将来に関する記述と大きく異なることがあります。SAFSらは、かかる将来に関する記述や予測、意見、本資料に含まれる記載に関連して発生する直接的又は間接的なものを含む何らの損害について、一切の責任を負いません。

本資料に含まれるいかなる情報ないし内容も、いかなる意味においても、募集、推奨、サービスや商品の販促、広告、勧誘若しくは表明と解釈してはならず、また、いかなる投資商品の売買若しくは証券へのいかなる投資に関する助言若しくは推奨であるとも解釈してはなりません。

本資料は、株主総会における議案に関し、SAFSらが、TOCOSの株主を代理して議決権を行使する権限をSAFSら又はその他の第三者に対して付与することを要請するものではなく、そのように解釈されてはなりません。また、TOCOSの株主に対して、SAFSら又はその他の第三者を自らの代理人と定め自らに代わってその議決権を行使する権利を付与することを提案し、奨励し、勧誘し又はこれを目指すものではなく、そのように理解されてはなりません。

Global ESG Strategyについて

GESは、ESG（Environment（環境）、Social（社会）及びGovernance（ガバナンス））の視点から中長期的な投資を行う投資ファンドであり、投資先との建設的な対話等を通じ、投資先の企業価値・株主価値の向上を実現することを後押ししていくことを方針としています。

Swiss-Asia Financial Services Pte Ltd.について

SAFSは、2004年設立、シンガポールを拠点とし、シンガポール証券先物法に基づく資本市場サービスライセンス（Capital Markets Services License）を保有する投資運用会社です。

本件に関するお問い合わせ先: globalesg@swissasia-group.com